第103回膠原病研究会

日　時　平成28年11月1日（火）
午後6時30分～
会　場　新潟大学医学部　有壬記念館

Ⅰ．一　般　演　題

1　妊娠を契機にループス腸炎で発症した全身性エリテマトーデスの1例

鴨田　知明・中枝　武司・若松　彩子
野澤由貴子・佐藤　弘惠*・和田　庸子
黒田　毅*・中野　正明**・成田　一衛

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎・膠原病内科学分野
新潟大学保健管理センター*
新潟大学医学部保健学科**

症例は36歳，女性．
【主訴】悪心，腹痛．
【妊娠歴】2妊1産．
【現病歴】X年2月，A病院で妊娠16週に流産し，子宮内容除去術を施行された．悪心，腹痛が続き，脱水症もあり，B病院に入院した．造影CTで大量の腹水と広範囲の腸管浮腫が認められ，抗核抗体1280倍であり，当科に紹介され入院した．頬部紅斑，関節痛，腎障害，低補体血症，抗核抗体陽性，抗DNA抗体陽性，腹部CTでtarget signを伴う腸管浮腫が認められ，全身性エリテマトーデス，ループス腸炎と診断した．ステロイドパルス療法，プレドニゾロン60 mg内服，シクロホスファミド間欠静注療法で，軽快した．
【結語】妊娠の終了を契機にループス腸炎で全身性エリテマトーデスを発症することがあり，注意が必要である．
【利益相反】なし．

2　血清反応陰性関節リウマチと診断した症例の臨床的特徴と治療状況

近藤　直樹・藤沢　純一・遠藤　直人

新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座整形外科学分野

【目的】リウマトイド因子陰性の関節リウマチの臨床的特徴と治療状況を調査すること．
【対象と方法】2014年7月から2015年6月まで当科関節リウマチ（RA）外来を初診し演者（リウマチ専門医）がRAと診断した症例のうちリウマトイド因子がカットオフ値（15IU/l）未満の症例を血清反応陰性関節リウマチ（Seronegative RA; SNRA）と定義したところ23例が対象となった．その臨床的特徴と治療状況を調査した．同時期にリウマトイド因子がカットオフ値以上の症例でRAと診断した症例（Seronegative RA; SPRA）を対照群とした．年齢，高齢発症関節リウマチ（60歳以上）の占める割合，初診までの罹病期間，罹患関節，抗CCP抗体の陽性率，値，血清MMP－3濃度，メトトレキサート（MTX）および生物学的製剤の導入状況を評価した．
【結果】年齢はSNRA群で65歳（40－81歳），女性比率は73％．SPRA群では66歳（24－83歳），76％で差はなかった．紹介初診までの平均罹病期間はSNRA1.8年，SPRA3.2年と有意にSNRAで短かった．高齢者率はSNRA65％，SPRA72％と差がなかった．罹患関節は手関節，手指MP，PIP関節，膝関節の順で多く両群間に差は認めなかった．抗CCP抗体の陽性率はSNRAで低く（26％対SPRA 88％），抗CCP抗体の値もSNRAで有意に低値であった（60.8IU/l対SPRA509IU/l, $p < 0.05$）．血清MMP－3濃度はSNRA群464ng/mLで有意に高かった（対SPRA256ng/ml, $p < 0.05$）．MTXが11例（48％），生物学的製剤が8例（34％）に導入されており，SPRA群と同等であった．（SPRA群；MTX10例，40％，生物学的製剤7例，28％）．
【結論】SNRA群はSPRA群に比べ，抗CCP抗体の陽性率や値は低く，血清MMP－3濃度は高い特徴を有していた．薬物の導入状況は同等であった．